

まきどき・植えどき・収穫どき  
どきどき情報

2月

●野菜の作業

種まき	栽培管理のポイント			
ハウス育苗野菜の播種 春レタス：ステイ、ウイガード キャベツ：SE、YRSE⇒中旬～ 春ハクサイ：優黄、彩黄⇒下旬～ 果菜類（ナス・ピーマン等）⇒ハウス用：上旬～ ネギ：夏扇2号⇒中旬～ セルリー：トップセラー⇒上旬～ ブロッコリー：緑帝、ハイツ⇒中旬～ ニラ など	葉茎菜類の発芽適温（℃）			タマネギの追肥 追肥時期が遅れると小玉になって収量が上がらないほか、貯蔵性が悪くなることから2月中旬以降に追肥し、寒冷地でも4月中旬までとする。 追肥はNK化成を使用し、窒素成分で1kg～1.5kg/aを2～3回にわけて行う。 (0.3kg～0.5kg/1回)
	種類	最低温度	最適温度	
	キャベツ	2～3	20～25	35
	ハクサイ	4	18～22	35
	ブロッコリー	2～3	15～25	35
	レタス	3～4	15～20	30
	パセリ	3～4	18～22	30
	セルリー	3～4	15～20	30

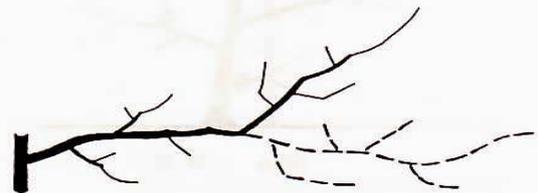
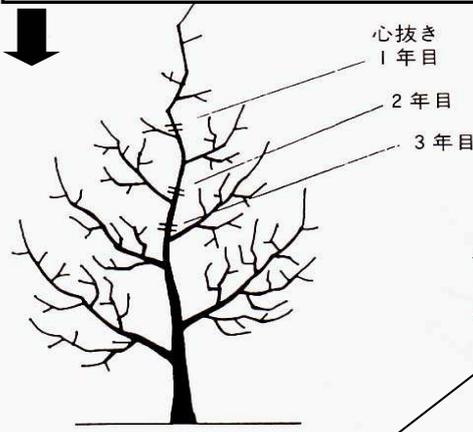
●果樹の作業（かきの剪定）



大木化してしまい収穫されないまま放置されている柿の木が多く見受けられます。作業しやすい樹形にし、摘蕾・摘果を行って隔年結果を防ぐとともに形の揃った実を収穫しましょう。

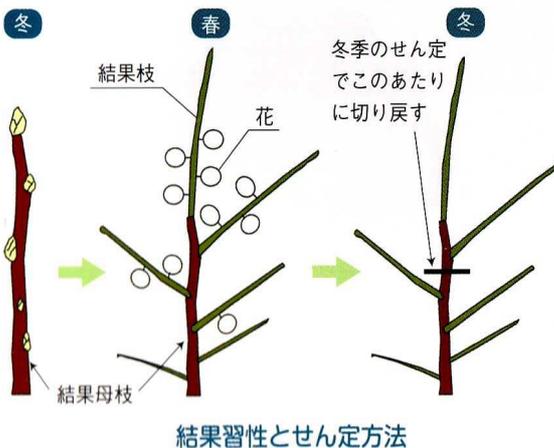
○木の形づくりは、4本の主枝を残すようにしますが、数年かけて樹高を低くするとともに、角度の狭い主枝を抜き、4本程度の主枝になるようにします。

○かきの樹は枝に光があたらないと小枝が枯れやすく、実のなるところが先へ先へといってしまいますので、光の入り妨げている大枝を取り除くとともに、先へ伸びてしまった枝は枝元へ切り戻りをします。

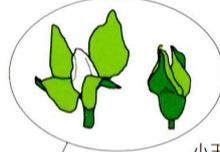


かきは昨年伸びた枝（結果母枝）の先端数芽から発生した新梢に花が着き実をならせます。

（摘蕾と摘果による品質向上と隔年結果の防止）



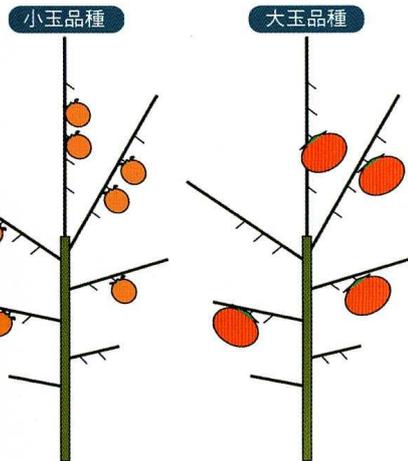
結果習性とせん定方法



摘蕾前

摘蕾後

摘蕾の方法



果実の大きさや樹勢によりこれより1～2果程度増減させ調整します。  
最終着果量の目安



	系 統	主な農薬成分名(主な商品名)	特 徴
神 経 系 阻 害 剤	有 機 リ ン 系	アセフェート(オルトラン、ジェイエース)、ダイアジノン(ダイアジノン)、マラソン(マラソン)、DDVP(DDVP)、MEP(スミチオン)、MPP(ハイジット)	分解が早い。アルカリ性で分解するため、アルカリ性の農薬(ボルドーや石灰硫黄合剤)と混用できない。
	カーバメート系	オキサミル(パイデート)、カルボスルファン(ガゼット、アドバンテージ)、ベンフラカルブ(オンコル)、メソミル(ランネット)、BPMC(バッサ)、NAC(ミコトナホン)	作用は有機リン剤に似るが、作用が異なるため有機リン剤と抵抗性が重ならない。熱、太陽光、酸に安定であるが、アルカリ性で分解されやすい。有機リン剤に次いで種類が多い。
	ピレスロイド剤	エトフェンプロックス(トレボン)、シクロプロトリン(シクロサール)、シハロトリン(サイハロン)、シベルメトリン(アグロスリン)、トラロメトリン(スカウト)ピフェントリン(テルスター)、ペルメトリン(アディオン)	除虫菊の研究から開発され、主な作用は神経まひ。有機リン剤やカーバメート系薬剤と作用が異なるので、抵抗性が重ならない。速効性で残効性があるものが多い。
	ネオニコチノイド系	アセタミプリド(モスピラン)、イミダクロプリド(アドマイア)、クロチアニジン(ダントツ)、ジノテフラン(スターク)、チアメトキサム(アクタラ)、テンプラム(ベストガード)	アブラムシ、スリップス、コナジラミ等に効果が高い、神経マヒ作用で摂食や産卵を防止する。速効性で効果が持続する。人畜毒性が低いなどの特徴がある。
	ネライストキシン系	カルタップ(パダン)、ベンスルタップ(ルーバン)	致死時間はかかるが、神経マヒは速やかに起こり摂食を阻害するため、食害は最小限に止まり、残効性がある。
行 動 阻 害 剤	トルフェンピラド	トルフェンピラド(ハチハチ)	エネルギー生産を停止させる新規系統。食毒よりも接触毒の作用がつよい。
	ピロール系	クロルフェナピル(コテツ)	呼吸系を阻害。食毒と接触毒の両作用があるが鱗翅目害虫には主に食毒。
	マクロライド系	エマメクチン(アファーム)、ミルベメクチン(コロマイト)	GAVA受容体に作用し虫の行動を抑制する。
I G R 剤	ベンゾイルウレア系	クロルフルアズロン(アタブロン)、シフルベンズロン(デミリン)、テフルベンズロン(ノーモルト)、フルフェノクスロン(カスケード)	ミツバチや天敵(ハチ類)などに影響が少なく、人畜に毒性が低い反面、アブラムシなどには効果が低い。(キチン質合成阻害剤)
	ブプロフェジン剤	ブプロフェジン(アプロード)	遅効性だが残効性が長い。コナジラミやカイガラムシ以外の昆虫には効果が低いが、天敵類に影響がない。(脱皮阻害剤)
	テブフェノジド剤	テブフェノジド(ロムダン)	残効性が極めて長く、鱗翅目に特異的に効果がある。(脱皮促進剤)

お知らせ

19年度の税制改正で減価償却費計算の方法がかわりました!!(償却可能限度額の廃止)

★計算の実際

○19年4月1日以降に取得した資産は

19年分の減価償却費＝取得価格×定額法による償却率×農業に供した月数×農業使用専用割合

12

○19年3月31日以前に取得し、現在償却中の資産は

いままで通りの計算で償却限度額になるまで償却し、それ以降は翌年から1円になるまで5年間に均等に償却する。(1円分は最終年に残す。)

○すでに償却限度額に達している資産は

平成20年以降の5年間で1円になるまで均等に償却する。(1円は最終年に残す。)

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター  
地域生活係 櫻井普及員 (Tel.25-7156)